



谷藤EYE通信

医療法人泰明会 谷藤眼科医院 盛岡市前九年二丁目2-38

URL <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~tanieye/>

平成16年(2004年)
10月・11月・12月号

No. 13

Tel : 019-646-2227

Fax : 019-645-3811

コンタクトレンズによる眼障害と改正薬事法

院長 谷藤 泰寛

コンタクトレンズ(以下CLと略)による眼障害例の増加への懸念を表明してきた眼科医会の影響もあってか、平成17年4月から医療機器の安全対策の抜本的な見直しを目的とした改正薬事法が施行され、CLは高度管理医療機器に分類された。販売店の許可制や施設基準の強化、販売管理者の設置等販売面での規制の強化が図られることになった。今や日本ではCLの使用人口は約1500万人に達するといわれ、平成13年に行われた眼科医会の全国調査から、その8~10%に眼障害が発生していると推定されている。今回の薬事法改正によるCL販売についての規制強化は、CLによる不具合が生じた場合、人体へのリスクが比較的高いと考えられるクラスⅢの高度管理医療機器(他には透析器、人工骨など)に分類されることに伴うものである。

Ⅰ.改正薬事法によってCL障害は防げるか
今回の改正は販売面での管理規制強化が主であって、具体的にCLによる眼障害防止のための手段とはならないことは明白である。CLによる眼障害の多くの事例がCL販売のみを目的に設立されたCL診療所(非眼科医による診療や名義貸しによる無診察処方を行っていることが多い)での処方やCLの通販やインターネット販売による購入例に見られることから、日本眼科医会では、CLは眼科専門医師の診療を必要とすることと、対面販売の原則を守ることを、一般へのCLの価格のみの過剰な広告の規制等を提案しているが、今

回の薬事法改正では医療法や医師法の改正を伴うものではないためCL医療の抱える根本的な問題が解決されることは至難である。

Ⅱ.インターネットを通じて2年間CLを購入し続け、一度も医師の診察を受けずに重症の角膜膿瘍をきたして来院した患者さんを、最近経験したばかりであるが(掲載写真参照)、感染性の角膜炎はCLによる最も主要な障害であり、現在一般的となった簡便な使い捨てや頻回交換レンズ使用は感染性角膜炎の危険性を増している。以前使用されてきたハードレンズやガス透過性レンズと比較して終日装用CLおよび連続装用CLは10倍以上の感染性角膜炎の危険性があるとされている。現に当医院でも年間10例以上の感染例を経験しているが全例が使い捨てCL装用例である。

いずれにしろ眼科専門医によるCL処方と装用指導、定期検査はCL使用に当たっての必須条件といえる。



結膜炎？と侮るべからず！

副院長 姜 和哲

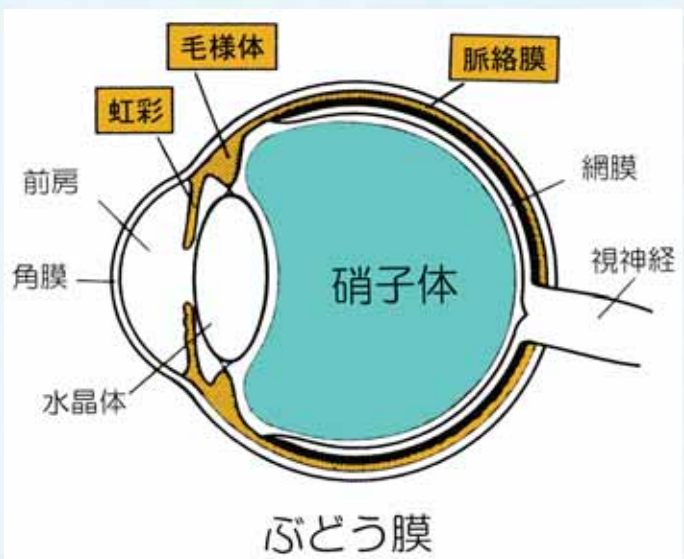
今年もあと3ヶ月あまりとなりました。今年の夏は昨年よりも暑かっただけに、これから寒くなるにつれて、体調を崩しやすくなる時期となります。通院していただいている患者様にとっても、生活するうえでは厳しい季節になってきますが、皆様一人一人のご健康を祈りながら診療に励んでいきたいと考えています。

さて、この季節の変わり目では、結膜炎、特にアレルギー性結膜炎の患者様も増える時期でもあります。眼が真っ赤に充血したから

結膜炎だろうと思い、中には市販薬ですます患者様もいらっしゃいますが、ちょっと待ってください。実は充血の中にも侮れないものがあることをご存知でしょうか？

それは、「**ぶどう膜炎**」という疾患です。ぶどう膜炎とは、虹彩、毛様体、脈絡膜からなる組織の炎症を指します。つまり眼内に炎症が発生する病気で、外見上の充血は、毛様充血というもので、結膜炎とは明らかに異なります。これは肉眼ではなかなか鑑別は困難であり、逆に発見が遅れると場合によっては高度な視力障害を残す可能性があります。ぶどう膜炎は原因不明なものが多く、場所（前部、中間部、後部、汎＝全体）によっても治療法が異なるため、早期発見・早期治療が一番有効なのです。それだけにこのような毛様充血も大事なサインなのです。

眼は病気を知らせる「窓」でもあります。充血を認めたら結膜炎と侮らず、診察を受けていただくことを是非お勧めいたします。



夏の思い出 ～蛍～

受付事務 三浦 洋子

数えきれないほどの蛍に一瞬言葉も出ませんでした。

小川の周りや稲にとまり、綺麗な光を発し暗い道を照らしています。樹にとまっている蛍はまるでツリーを思い出させるくらいの迫力です。慌ただしく過ぎてゆく毎日、なぜかホッと成りこの場所だけ時間が止まっている、そんな気がしました。今年の夏も終わってしまいました。

来年の夏もあの群れに会えたら・・・と思いました。



“目は体の窓”ともいわれ、目（眼底）は唯一体の中の血管が見える場所です。その為、別の症状で外来を受診された患者様が血圧が高いことを指摘されたり、糖尿病を発見されたりすることも珍しくありません。

糖尿病の合併症である網膜症は、本人も気づかないうちに少しずつ進行する怖い病気ですが、一般に糖尿病を発病して約10年（血糖値のコントロール状態によって進行の度合いは異なります）で、約半分の人が網膜症を合併しているといわれています。この事からも何年前に診断され、どのような治療をしているのか、現在の血糖値はどれくらいかという情報がとても大切なのです。

その他にも緑内障の治療薬である交感神経β遮断薬を使用するにあたり、心臓疾患や喘息の有無も事前に確認しておかなければならない大切な情報でもあります。初診時や術前、また長年通院していただいている患者様には、数年に1回既往歴を確認させていただきます。眼科なのでどうしてそこまで聞く必要があるのだらうと思われるかも知れませんが、治療をしていく上でとても大切なことばかりなので、ぜひ既往歴確認にご協力をお願いいたします。

既往歴：高血圧・糖尿病・喘息・リウマチ・その他の全身疾患・アレルギーの有無・眼科以外に手術をしたことがあるか・他に現在内服している薬はあるかなど



飛蚊症

検査課長 藤村 隆志

目の前に、虫や糸くずなどのようなものが飛んで見えることを、飛蚊症（ひぶんしょう）といいます。

眼球内には、硝子体という粘稠で透明な液体がつまっています。何らかの原因で硝子体に混濁が生じると、白い壁や青い空などの明るいところを見たとき、混濁の影が網膜に映り、目を動かすたびに飛んで見えるようになります。この硝子体の混濁は生理的な原因によるものと病的な原因によるものがあります。

生理的飛蚊症は、胎生期に消失する組織が残ってそれが飛蚊症とを感じるものや、加齢（老化）や近視の強い方に多い硝子体剥離（硝子体の成分が変性萎縮し、網膜からはがれる状態）による飛蚊症は、混濁の数や症状に変化なければ多くの場合治療の必要もなく心配のない症状です。

注意することは、網膜に穴が開く網膜裂孔、網膜が剥がれる網膜剥離、高血圧や糖尿病などによる眼底出血と硝子体内に出血する硝子体出血、眼の炎症によるぶどう膜炎などです。最近急に飛蚊症が出現したり数が増えた方は、病的な可能性や失明につながる場合もありますので、自己判断せずに眼科医での眼底検査をお勧めします。

検査方法は、瞳を点眼液（散瞳剤）で広げ眼の中を精査しますが、瞳が開くと光やピントの調節ができなくなりますので、お車の運転は控えていただきます。



網膜裂孔と網膜剥離

影谷園にはシャクナゲがたくさん植えてあります。私が庭造りにシャクナゲをよく使うのは、ひとつには花が綺麗だからですが、もうひとつは寒さに強い常緑樹が他にあまり多くは無いからです。

庭師さんの中には、「シャクナゲは活着させるのが難しいから使いたくない」と思っている人がいますが、それは山どりのシャクナゲを植えていた頃のお話で、今は栽培品ですから殆んど定着します。

近年園芸店で安価なセイヨウシャクナゲの苗が売られていて、随分人気があるようですから、岩手県の街や村の庭にはシャクナゲが目立つようになるでしょう。

影谷園には数種のシャクナゲがありますが、一番多いのが“フォーチュネイ”という種類です。これは耐寒性が特に高く、マイナス20℃になっても枯れません。また成長も早く4mを超えるくらい大きくなります。花は白や薄紫の大輪で豪華です。大きくなりすぎるので小さい庭には不向きという点が欠点といえば欠点です。



お知らせ (変更・追加がある場合もございます)

10月9日(土) 日本眼科医会第4回理事会；院長出席予定

10月10日(日) 目の愛護デー

10月23日(土)～24日(日) 第45回日本視能矯正学会(盛岡市)；

院長・副院長・藤村・村上・小原・谷藤(は)出席予定

11月11日(木)～14日(日) 第58回日本臨床眼科学会(東京都：東京国際フォーラム)；

院長・副院長・早坂・村上出席予定

11月27日(土) 第305回岩手眼科集談会

12月11日(土) 日本眼科医会第5回理事会；院長出席予定

12月28日(火)午後～2005年1月3日(月) 年末年始休診予定

※内科診察予定：毎月第2・第4木曜日です

(都合により変更になる場合もあります。診察を受ける患者様は、ご確認の上来院お願いいたします)

報 告

7月2日(金)～3日(土) 第42回北日本眼科学会(福島市)；院長出席

7月9日(金)～10日(土) 第37回樺桐会眼科研究会(札幌市)；院長出席

7月10日(土)～11日(金) 第20回日本眼科看護研究会(静岡市)；篠村善幸・摂待育子・佐々木裕子出席

7月17日(土) 看護師勉強会

7月24日(土) 第304回岩手眼科集談会；院長・副院長・村上・小原・谷藤(は)出席

8月7日(土) 日本眼科医会第3回理事会；院長出席

8月21日(土)・22日(日) 第27回東北ブロック眼科講習会(盛岡市)；副院長

第15回東北ブロック眼科医療従事者教育講習会(盛岡市)；

院長(座長)藤村・早坂・摂待・佐々木(裕)・村上・小原・谷藤(は)出席

8月24日(火) 検査部勉強会

9月18日(土)～22日(水) 第22回欧州白内障・屈折手術会議(ESCRS)(フランス：パリ)；院長出席